

学位授与番号	甲第 1603 号		
学位授与年月日	平成 15 年 9 月 30 日		
氏 名	Elijah Martim Songok		
学位論文題目	The use of short-course zidovudine to prevent perinatal transmission of human immunodeficiency virus in rural Kenya (短期ジドブジン使用によるヒト免疫不全ウイルス母子感染予防の試み—ケニアの田舎において—)		
論文審査委員	主 査	教授	中 村 信 一
	副 査	教授	井 関 基 弘
		教授	西 條 清 史

### 内容の要旨及び審査の結果の要旨

発展途上国におけるヒト免疫不全ウイルス(HIV)の母子感染予防には短期間の抗レトロウイルス剤の使用が勧められている。しかしながら、これらの予防法の基礎となるデータは先進諸国または発展途上国でも医療施設の比較的充実した都会地における研究で得られたものである。現在 HIV 感染者の約 70%がサハラ砂漠以南のアフリカ諸国で生活しているが、その 2/3 は医療施設の不十分な田舎で生活している。したがって、抗レトロウイルス剤による HIV 母子感染予防を今後進めていくうえではアフリカの田舎での研究データが必要である。今回、医療施設の不十分な地域で生活している、母乳投与を行っている集団において HIV の母子感染予防に短期ジドブジン(Zdv)投与が有効であるかどうかを明らかにするために、西ケニアの妊婦を対象に研究を行った。1996 年から 1998 年に西ケニアの 7 つのヘルスセンターの妊婦を対象に HIV 検査、Zdv 投与、HIV 感染に関する母乳哺育の危険性等を説明した後、本研究への参加を要請した。HIV 陽性の妊婦に対して、Zdv を妊娠 36 週から分娩時まで 400mg/日、分娩開始後終了まで 300mg/3 時間投与した。分娩後 24 ヶ月間、3-4 ヶ月毎に母子を臨床的に追跡調査した。得られた結果は以下のように要約される。

1. インフォームドコンセントの得られた妊婦 825 人中 216 人 (26.2%) が HIV に感染していた。
2. HIV 感染妊婦 216 人中 96 人 (44.4%) は Zdv 投与を受けられなかったが、その主な原因は「予定日より早い分娩によるものであった。
3. Zdv 投与を受けた 120 人の妊婦中 69 人 (58.3%) は自宅分娩であり、分娩中の Zdv 投与は受けられなかった。
4. Zdv 投与は分娩中の未投与例が多いにも関わらず、有意に HIV 母子感染率を減少させた (15.0% vs. 42.0%,  $P < 0.005$ )。
5. 短期 Zdv 投与を受けた母親から生まれた児は Zdv 投与を受けなかった母親から生まれた児に比べ有意に死亡率が低かった (生後 24 ヶ月 ; 28.3% vs. 42.7%,  $P < 0.039$ )。
6. 生後 24 ヶ月の児の生存率は母親の生存 ( $P < 0.001$ ) と分娩前の Zdv 投与 ( $P < 0.003$ ) と有意に相関していた。

以上の結果より、分娩前短期 Zdv 投与はアフリカの田舎においても HIV 母子感染の予防と児の生存率の改善に有効であることが確認された。同時に、アフリカの田舎の地域で抗レトロウイルス剤を用いた HIV 母子感染予防を有効に行うためには種々の社会経済的ならびに文化的な障害を考慮する必要があることが明らかとなった。

本研究は、短期 Zdv 投与による HIV 母子感染予防が HIV 感染者の多くが生活している医療施設の不十分な地域においても有効であること、ならびに短期 Zdv 投与による HIV 母子感染予防を実際に進めていくうえでの問題点を初めて明らかにしたものであり、学位に値すると判断された。